■発行　プルサーマルに反対する双葉住民会議　2012.5.28　No152

脱原発情報

〔構成団体〕　双葉地方平和フォーラム・双葉地方勤労者協議会・社民党双葉支部協議会・　双葉地方原発反対同盟

発行責任者　石丸小四郎　　970-8026　いわき市平城東 3-2-3 セレーノ城東ＧＭ 1003 号

TEL・FAX　0246-25-7737　携帯　090-4477-1641

E-mil：ishimaru19430106@gmail. com

１号機建屋カバー解体　理由は何だ！

２億４千万ﾍﾞｸﾚﾙ／日　大気放出さらに増える

東京電力は５月９日、第一原発１号機の建屋カバーの解体作業に着手すると発表した。2011 年 10 月の設置当時「放射線物質の飛散を抑えるカバー」と称していたが、このカバーの目的が今になって怪しくなってきた。解体の真の目的は何なのか探ってみた。

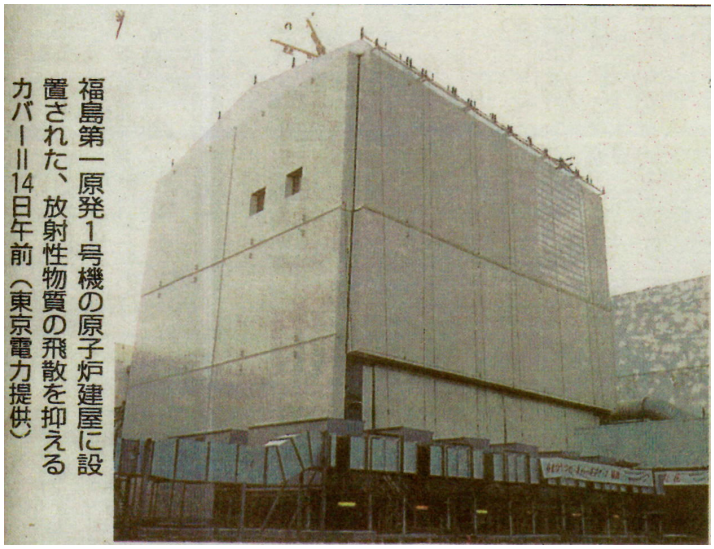
カバーの設置は大気中への放出低減？

東京電力は、カバーの完成で「排気設備に放射性物質を除去するフィルターを取り付け大気中への放出が約 99 ％低減できる」と語っていた。〔資料１〕

一方では、こう述べていた。「建屋を覆った上で 2014 年を目途に使用済み燃料プールから燃料を取り出しに着手する計画だ」（2012.10.29 福島民友）

だが、危険極まりない事態も判明していた。「１号機で格納容器内の気体を取り出して浄化するシステムを設置しようとしたが配管に濃度 60 ％以上の水素が充満していた。水素濃度が４％、酸素濃度５％を上回ると水素爆発の危険性がある。水素を追い出すための窒素を注入した」…と。カバーは水素爆発の危険もあったのだ。

〔資料１〕設置当時「放射線物質の飛散を抑えるため」だった



福島第一原発1号機の原子炉建屋に設置された、放射性物質の飛散を抑えるカバー＝14日午前（東京電力提供）

〔2011.10.29　福島民報〕

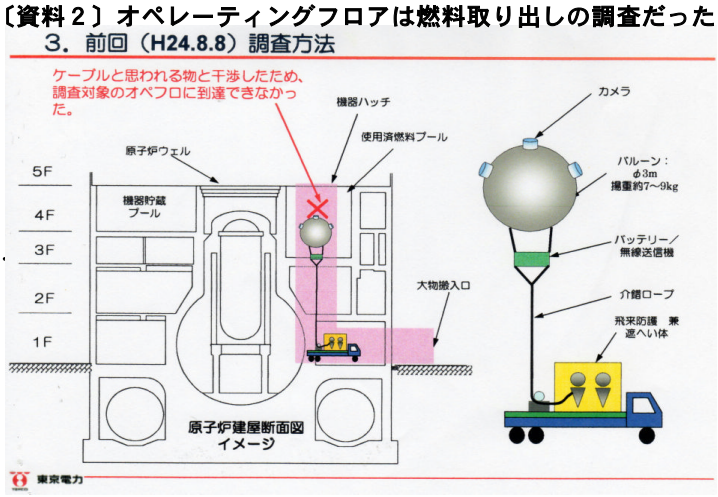
カバー取り外しで大気放出が増える！

今回、カバーを撤去する理由として「建屋内のオペレーティングフロア上に散乱したガレキを撤去する」としているが、この「オペレーティングフロアの状況調査結果」（資料２）を見ると我々の感覚とは大いに違う。線量が高く人が中に入れないため建屋内にバルーンを揚げカメラや測定器等を吊してフロアの線量を調査するそうだ。

建屋各階を見れば２Ｆ 150.5 ﾐﾘｼｰﾍﾞﾙﾄ／時、３Ｆ 33.6、４Ｆ 20.1、５Ｆ 53.6 と人が作業できる線量ではない。

当初のカバー設置目的「大気中への放出低減」は怪しくなり、廃炉収束作業の困難さだけが目に付く。第一原発は２億４千万ﾍﾞｸﾚﾙ／日も放出し続けている。これがさらに増えるのは確かだ。

〔資料２〕オペレーティングフロアは燃料取り出しの調査だった



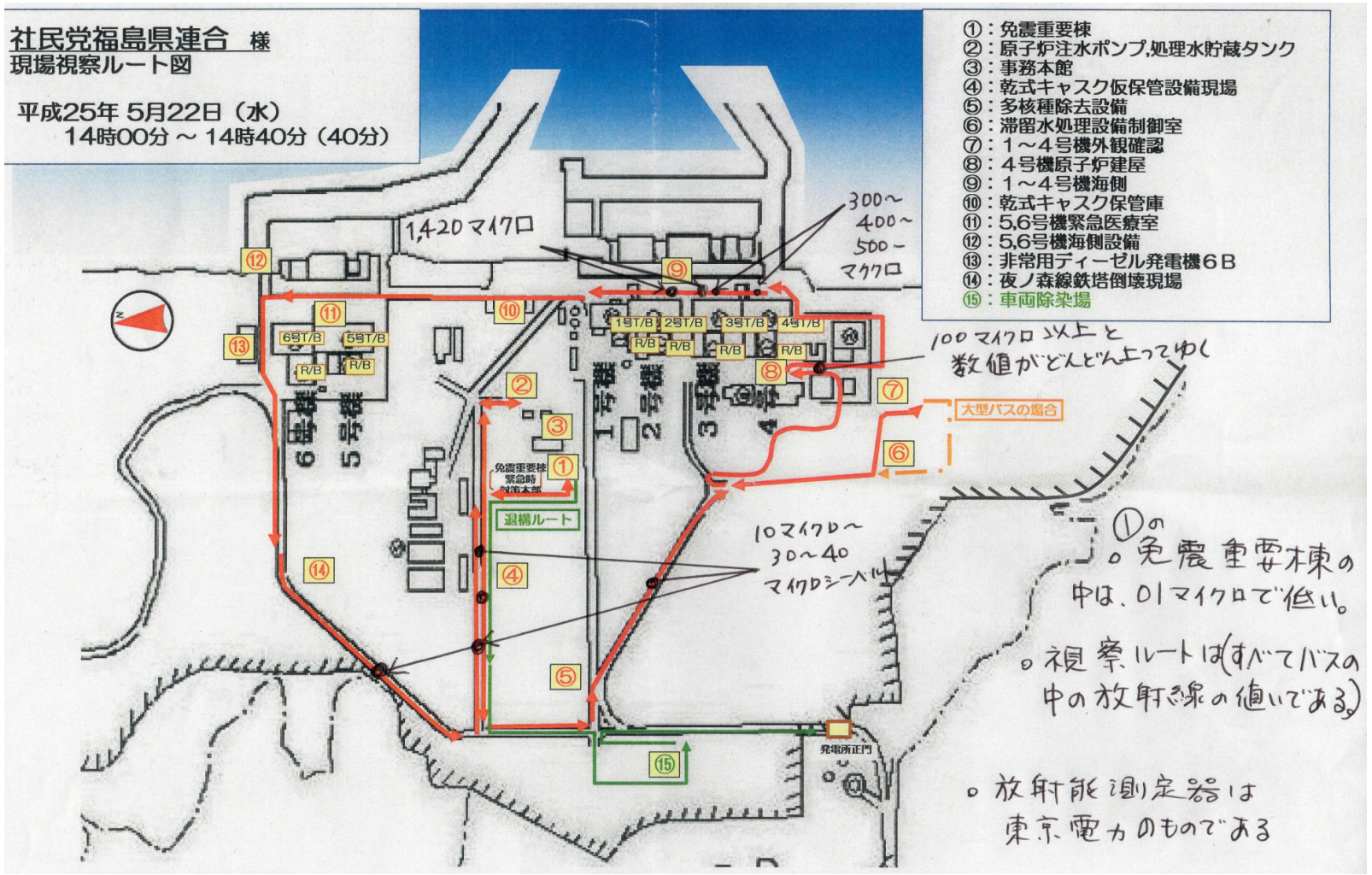
〔2012.10.24　東京電力〕

巨大事故から2年2ヶ月　第一原発を視察して

いわき市　鈴木　裕

2013 年 5 月 22 日（水曜日）14 時 00 から 14 時 40 分の 40 分間、東京電力福島第一原発の視察を社民党福島県連合の視察団 40 名と同道した。その感想を述べることとする。

東京電力第一原発の視察ルート　①から⑮までは要施設名



・Ｊヴレッジの東京電力までは自家用車で向かった。

・Ｊヴレッジから、第一原発内の、免震重要棟まで 20 ｷﾛ余りを東京電力のバスで向かった。

・免震重要棟からは、別の東京電力のバスに乗り換え第一原発を視察した。

・第一原発に行くに当たって、ビデオカメラ、デジタルカメラの持ち込み禁止だった。携帯は責任者のみ許され、放射能測定器は持ち込み自由であった。

・マスク、靴のビニールカバー、ビニール手袋と布手袋は必着の指示を受けた。タイベックは着用なしだった。

・第一原発の中では、毎日 3000 名が働いている。濃い水色のタイベックを着用している作業員が多かった。

・免震常用棟の中は換気のため蒸し暑い。室内は 0.1 ﾏｲｸﾛｼｰﾍﾞﾙﾄ／時程度だった。

・第一原発内は汚染水のタンクの列がとにかく多い、これからまだまだ増えたらどうするのだろうと思った。

・ネズミで大変だった配電盤が 2 台のトラックに乗せられていた。見た目に非常に危なっかして、東京電力社員に聞いたら「大丈夫です」と答えた。

・第一原発は放射能さえなければ大きな工事現場である。作業員は普通に仕事をしているように見える。とても最高値が 1420 ﾏｲｸﾛｼｰﾍﾞﾙﾄ／時もあるところとは思えない。

・第一原発の地下に、高濃度の汚染水を貯蔵するのは無理と感じた。1 日 400 ﾄﾝもの水が流れ込む地下にはそれは置けない。

・私の 40 分間の視察での被曝線量は 16 ﾏｲｸﾛｼｰﾍﾞﾙﾄ／時で、他の人も 18 ﾏｲｸﾛｼｰﾍﾞﾙﾄ／時が多かった。

・第一原発の放射線は地図上の①②③④⑤は 10 ﾏｲｸﾛｼｰﾍﾞﾙﾄ／時から 40 ﾏｲｸﾛｼｰﾍﾞﾙﾄ／時。

・⑦⑧⑨は 100 ﾏｲｸﾛｼｰﾍﾞﾙﾄ／時から上がり始め 4 号炉、3 号炉では 300 ～ 500 ﾏｲｸﾛｼｰﾍﾞﾙﾄ／時、2 号炉手前では 1420 ﾏｲｸﾛｼｰﾍﾞﾙﾄ／時まであがった。参加者一同「信じられない！」との思いが伝わってくる。2 号炉の内部は 72 ｼｰﾍﾞﾙﾄの殺人的線量だから外部でもそのくらいあるだろう。

・視察を終えて、Ｊヴレッジから乗ってきた東京電力のバスに乗り換えＪヴレッジまで帰ってきた。